教養教育科目　講義科目

授業科目名	教養としての音楽史入門	科目コード	配当年次	単位
担当教員	中村　真由子	GA27	1	2

科目の概要

音楽は、文化という大きな営みの一部として存在する。音楽が常に特定の時代や地域の文化と不可分の関係で存在していることから、西洋音楽史を学ぶときには、社会・経済・政治・文化・哲学など、様々な歴史に照らしつつ学習することが重要である。

本科目では、テキストの各章の始めに設けられた音楽史と世界史を対照させた年表、時代背景、音楽史概説を基に、形式・様式と技法・メディア（演奏媒体）・ジャンル・地域（楽派）・作曲家論・記譜法といった様々な観点から音楽史を学び、さらに、付録の音源を活用して、音楽に親しんでいく。意外にも我々が生きる現代社会において、西洋音楽が身近なものであることに気づくであろう。

科目の到達目標

①音楽史の基本的流れを押さえ、各々の時代にどのような音楽家および作曲家が活躍し、いかなる作品が作曲されたのか理解できる。
②各作曲家の作品が創られた時代背景を踏まえた上で、テキスト付属のＣＤを積極的に活用しながら、曲ごとの音楽的特徴と作曲家が活躍した時代の音楽様式を理解することができる。

テキスト	『大人の音楽史入門』長沼 由美 他,ヤマハミュージックメディア,2007年

テキストの読み方

テキストでは西洋音楽の歴史が、「古代～中世」「バロック時代」「(前古典派の時代)・古典派の時代」「ロマン派の時代」「近・現代」の５つの時代に区分して記されている。学習するにあたっては、まず年表を確認し、「音楽史」と「世界の主なできごと」を照らし合わせて各々の時代の流れを把握する。その上で以下４点に留意して学習を進めること。
①各時代における音楽様式の特徴。
②各時代を代表する作曲家の生涯および時代背景。
③各々の作品がいかなる音楽的特徴を有し、西洋音楽史上どのように位置付けられているのか。
④実際の音楽がどのような曲なのかを、テキストに表示があるごとに必ずＣＤを聴いて確認する。

単位修得の方法

①リポート課題を提出し、60点以上であれば合格となり、科目修得試験を受験できる。科目修得試験の得点が60点以上であれば合格となり、評価が確定し、２単位を修得できる。
または、
②スクーリングを受講し、合格すれば２単位を修得できる。この場合、リポート課題の提出と科目修得試験の受験は不要。